



《安全管理》 転倒転落発生率

＜項目解説＞

転倒転落は、患者さまの年齢や認知力により発生に差が生じると言われています。それは、患者さまが普段過ごしている生活の場と異なる病院の環境に適応する力に年齢や認知力が影響を及ぼすためです。転倒転落により外傷や打撲だけでなく、骨折・脳出血など重大な障害をおこす事もあり、これにより患者さまに後遺症を残す事もあります。転倒転落をおこしやすい患者さまをアセスメントシートで認識し、予防の計画立案及び計画の実施を評価します。

＜当院の実績＞

【平成24年度】	転倒転落発生率	0.3%
	障害を伴う転倒転落発生率	0.011%
【平成25年度】	転倒転落発生率	0.3%
	障害を伴う転倒転落発生率	0.018%
【平成26年度】	転倒転落発生率	0.3%
	障害を伴う転倒転落発生率	0.021%

＜当院の自己点検評価＞

高齢者においては立位能力・歩行能力が低下し転倒の危険性が高くなっており、65歳以上の高齢者の約1/3が1年間に1回あるいはそれ以上、転倒経験があることが報告されています。

転倒の経験は身体的・精神的に悪影響を及ぼし、健やかな老後生活の妨げとなり、高齢者のQuality of life(QOL)を著しく低下させる要因となりますので、入院中の転倒・転落に伴う骨折および外傷を予防する取り組みを続けてまいります。

＜定義＞

セーフティレポートによる転倒転落の発生率

＜算式＞

転倒転落発生率 分子：セーフティレポートによる転倒転落件数
分母：入院延べ患者数

障害を伴う転倒転落発生率 分子：セーフティレポートによる影響レベル3以上の転倒転落発生件数
分母：入院延べ患者数